

# インクル

第36号 2005(平成17)年5月25日

"Incl." by The Accessible Design Foundation of Japan (The Kyoyo-Hin Foundation)  
共生社会の実現を願う妖精「インクル」 「包括的教育理念」を意味する英語「インクルージョン」から名付けました。

## 目次 / Contents

|  |       |    |
|--|-------|----|
| 共用品推進機構の平成17年度事業計画、標準化に向け内外機関との連携を推進<br>(森川美和).....  | 2     |    |
| 友好5団体の平成17年度活動計画、市民の視点で地域から「共用品」を情報発信...             | 3     |    |
| <b>&lt;ニュース&amp;トピックス&gt;</b>                        |       |    |
| 「バリアフリー 2005」にADF3団体が共同出展 (山本修).....                 | 5     |    |
| イトーヨーカ堂の介護開発商品、大活字が白黒反転の三角定規 (高嶋健夫).....             | 6     |    |
| リコー通販誌で共用品紹介、ユニバがお台場に「目配り三角シール」(高嶋健夫)...             | 7     |    |
| <b>&lt;この業界・この団体&gt;</b>                             |       |    |
| (社)全日本文具協会<br>「共用品普及」を環境、知財に続く第3の柱に (高嶋健夫).....      | 8     |    |
| <b>&lt;随想 私と共用品&gt;第16回</b>                          |       |    |
| アジア・アフリカの留学生との交流の中で (河辺豊子).....                      | 9     |    |
| <b>「空港のバリアフリー」を考える</b>                               |       |    |
| 進むハード面の配慮、課題はソフトの対応 (高嶋健夫).....                      | 10    |    |
| <b>&lt;キーワードで考える共用品講座&gt;第35講</b>                    |       |    |
| 「数字で見るバリアフリー第3回」(後藤芳一).....                          | 13    |    |
| <b>&lt;鴨志田厚子さんの談話室&gt;⑤</b>                          |       |    |
| 真の「親切さ」「使いやすさ」とは (森川美和).....                         | 14    |    |
| <b>&lt;事務局長だより&gt;「1年の長さ」に思うこと (星川安之).....</b>       |       | 15 |
| 共用品通信・情報アラカルト.....                                   | 14&15 |    |
| <b>&lt;わが社のエース&gt;小松製作所「EPACK(イーパック)」(高嶋健夫).....</b> |       | 16 |
| 奥付   |       |    |



■大きな活字で印刷された「大活字本」は、弱視の人にも、高齢者にも読みやすい共用品です。一般に「22ポイント・ゴチック体」が使われます。それ以外にも最近、従来より活字を大きくした単行本、文庫、地図などが盛んに刊行されるようになってきました。  
イラスト：牧内 智子

# 共用品推進機構の平成17年度事業計画 標準化に向け、内外機関との連携を推進

（財）共用品推進機構の平成17（2005）年度の事業計画が決定した。本年度も引き続き、①共用品・共用サービスに関する調査及び研究、②標準化の推進、③普及・啓発、④人材育成、⑤情報の収集と提供、⑥国内外関係機関との交流と協力——の主要6事業分野ごとに活動を展開する。  
（森川 美和）

## 不便さ・ニーズに関するシステム構築

調査・研究事業としては、別表の7つの事業を計画している。このうち、「障害児・者／高齢者等の日常生活環境における不便さ等の実態把握システムの構築」は受託事業で、平成16年度までに実施してきた障害者・高齢者団体への日常生活における不便さおよびプリ調査（定性調査）の分析を基に、年齢の高低に関わりなく何らかの障害のある人たち（高齢者、子供を含む）が、日常生活における不便さ・ニーズを社会に素早く伝えられる仕組み作りからの発展としてシステム構築を行う。

「共用品市場高度化調査」は、自主事業として継続。国内市場規模調査を実施し、時系列的にデータを蓄積していく方向である。

標準化の推進においては、引き続き、「触知図における凸表示に関する調査・研究」と日本工業規格（JIS）原案の作成を行うとともに、「公共トイレにおける操作パネルの位置に関する標準化」の調査・研究を行う。

## HCR、独REHA展に継続して出展

本年度も、国内外の展示会に参加し、共用品普及活動を積極的に行う。主なものとしては、9月には今年が6年目となる「第31回国際福祉機器展（HCR）」（東京ビッグサイト）、10月には連続3年目となる「REHA CARE2005」（ドイツ・デュッセルドルフ）にそれぞれ出展する。

また、教育現場においても、「総合的な学習の時間」などで共用品を取り入れた授業を実施してもら

### ■共用品推進機構の平成17年度の主な事業概要

1. 調査及び研究
  - (1) 障害児・者／高齢者等の日常生活環境における不便さ等の実態把握システムの構築
  - (2) 共用品市場高度化調査
  - (3) 共用品データベース（DB）研究・開発
  - (4) 共創システム及びモニタリング調査システムの構築
  - (5) 共用サービスの標準化に関する調査研究
  - (6) 表彰制度、マーク等のあり方に関する検討
  - (7) 高齢者生きがいグループホームの効果的な設置・運営方法に関する調査
2. 標準化の推進
  - (1) AD関連テーマの調査・研究、JIS原案の作成
  - (2) 関連機関実施のAD関連JIS原案等作成・調査研究に関する協力
3. 普及及び啓発
  - (1) 共用品・共用サービス展示会の実施
  - (2) バリアフリーサービスマニュアルの作成
    - ① 愛知万博「バリアフリーサービスマニュアル」検証
    - ② 「バリアフリーサービスガイドライン」からの発展
  - (3) 子ども向け「共用品絵本」HPからの発展
  - (4) 普及・啓発のための書籍・ビデオ企画・作成
4. 人材育成（シンポジウム・講座、企業向け講座）
5. 情報の収集・提供
  - (1) 機関誌（「インクル」、メルマガ「共用品推進機構だより」）の発行
  - (2) ホームページにおける情報提供
  - (3) 各種媒体による情報提供
  - (4) 不便さ調査報告書の配布
6. 国内外の関係機関等との交流及び協力
  - (1) 国内の関係機関との交流
  - (2) アジアなど海外の関係機関と交流
7. その他
  - (1) 理事会・評議員会 (2) 賛助会員活動

えるように、教材開発などの活動を展開する。

人材育成に関しては、現在約30のアクセシブルデザイン（AD）に関連する団体が加盟している「アクセシブルデザインフォーラム（ADF）」において、本年も秋に開催する予定の「アクセシブルデザインフォーラム・シンポジウム」に幹事団体の一団体として参加し、運営の一端を担う予定である。

国内外の関係機関との交流・協力に関しては、平成16年度までに、韓国・中国とADの標準化に関して交流・連携を図り、「中日韓アクセシブルデザイン委員会」を発足させるに至った。

17年度は、すでに4月に第2回の「中日韓アクセシブルデザイン委員会」をソウルで開き、さらには本年冬にソウルで行われる「第4回東亜中日韓標準化セミナー」において、進捗状況の報告を行う。

# 友好5団体の平成17年度活動計画 市民の視点で、地域から「共用品」を情報発信

## 共用品ネット 新たに3つのプロジェクトが活動開始

今年度は新しいプロジェクトが3つスタートし、継続プロジェクト6つに加え、以下の9つのチームが活動する。11月12日にはプロジェクト活動の経過をお知らせする「報告会」を予定している。

### 【ミュージアムのUDプロジェクト】

多様な利用者が楽しむために、わかりやすい情報提供、移動やアクセスのしやすさ、会話や支援、安全面で行き届いた配慮に役立つガイドを提供する。

### 【気配りアフリープロジェクト】

共用品ネットではみんな発言の前に名前を名乗る。それは視覚障害者や手話通訳を見る聴覚障害者にわかりやすいから。障害を超えてコミュニケーションする工夫や、気配りの知恵を集めて紹介したい。

### 【歴史的文化財のUD研究プロジェクト】

日本には歴史的な文化財が数多く存在する。アクセスの改善を含め、皆が楽しめる文化財のあり方、情報の伝え方、心配りを提案にまとめていく。

### 【利用しやすいバスのあり方プロジェクト】

最も身近な交通手段であるバスの停留所の「わかりやすいあり方」を研究する。評価のためのチェックリストを作成し、実態調査した研究報告書を編纂

中。今後は外部との協業も視野に、改善提案する。

### 【片麻痺プロジェクト】

身の回りの道具を使い少し努力すれば、片手でもネクタイが結べ、編み物ができる。片麻痺の方、高齢の方の生活応援「便利グッズ集」の完成を目指す。

### 【パッケージプロジェクト】

包装商品の「識別」「開けやすさ・使いやすさ」を研究している。牛乳パックの識別のための「切り欠きマーク」を提案した実績を持つ。

### 【高齢者プロジェクト】

高齢者の生活を支援する安価な日常生活用品、便利用品や生活の知恵や工夫をアンケート調査し、結果を広く高齢者の方々に活用してもらう。

### 【マネー&カードプロジェクト】

セルフマークの国際標準化に向け、引き続き関係各所と連携しながら活動する。昨年発行された新札について視覚障害者へのアンケートを実施する。

### 【シーズタンク】

共用品の「種」を探し出し、発芽させ、新しいプロジェクトに育て上げる場。メンバーが感じた不便さや問題点をテーマ探しにつなげる。  
（永井武志）

## E&Cプロジェクト静岡 「子供のためのUD体験教室」を運営

昨年度、地元メーカー、流通事業者と一緒に食品パッケージについて調査・研究した。その結果、メーカーと消費者の間に意識のズレがあることがわかった。今年度はより良いパッケージ商品誕生を目指して、地域のスーパーを会場に消費者とメーカーが情報交換する場を設け、意見集約を行っていく。

E&C静岡は長年にわたり子供のためのUD体験教室を開催してきたが、今年度は静岡県ユニバーサルデザイン室より、県内の小学生を対象にした「子

供のためのUD体験教室」開催を依頼された。夏休み期間中、県内東・中・西部の3カ所で体験教室を開催する。楽しみながらUDについての理解を深めてもらえるように、室内での体験&レクチャーと街中探検の二本立てで実施する計画だ。

今年度最大のイベントとなるのが、静岡県が主催する「第4回しずおかUD大会」の企画・運営事業。開催期間は未定だが、冬に開催する予定。

（静岡あおい）

間もなく発足10年目を迎える。正直よく続いたなあと感じている。しかし、決して長いと感じることはなく、昨年末、ある会員から定例会が100回を数えることを知らされたとき、改めて会員の方々の気持ちが1つに結びついた証と確信することができた。市民活動では異例と思えるほど、行政関係の方々や地元メディアなどから、発足当初より注目をいただいていた。その結果、活動の柱である「共用品の普及・啓発」も初期の目的を達し、産業界ではすでに一般常識となり、定着しつつある。

この5月は、活動の中で大きなウェイトを占める国際福祉健康産業展「ウェルフェア」に出展した。今年で8回目を数えるが、回を重ねた結果、「どんな新しいモノが見られるか楽しみにしています」との声も聞かれるようになり、励みとなっている。今年のテーマは「安心・安全の共用品展」とした。

7月には岐阜県内の視覚に障害のある方々から、最新の共用品を紹介してほしいとの依頼をいただいている。今後も、こうした地域に根ざした活動ができればと考えている。  
(小塚武志)

昨年度は「UDサロン」や各種展示会参加などで多くの実績をあげたが、例会のグループ活動が低調だった。そこで、本年度は以下を柱に活動を行う。

【グループ活動の活性化】 会員が例会で意欲的に活動できるようにグループを再編成し、新しいテーマを進める。今後選別する新活動案は、良いモノ探しグループ、良いモノづくりグループ、共用品情報集めグループ、教育グッズ・システムグループ。

【展示発表会の開催】 活動内容を広く一般に報告する「展示発表会」開催を目標に掲げる。

【NPO申請】 いっそうの信頼度を高めるため、NPO

法人取得に向け具体的検討を進める。

【UDサロンの継続開催】 企業が参集し学習と交流を行う場として、大阪府産業デザインセンターと共に過去7回開催したが、好評であり継続開催する。

【ホームページの活用】 掲示板やメルマガを加え、会員が積極的に活用するようにする。

以上のほか、①障害者モニター組織を充実させ、企業への使用テストモニター派遣機会を増やす、②街の良いところ探し活動を通じて、社会環境のUD評価基準づくりに取り組む、③各種展示会参加による広報——などの活動を継続する。  
(中島 巖)

共用品の啓発や普及に取り組んでおり、一般の方も以下の各プロジェクトに参加できる。

【小中学校出張講座】 福岡県を中心に小学校や中学校で「共用品」の授業を行う。

【点字プロジェクト】 点字やサインの普及を行う。

【大学生商品開発プロジェクト】 福岡大学、近畿大学、九州大学の学生たちが商品開発を行っている。

【バリアフリープロジェクト】 「福岡タウンモビリティをつくる会」と福岡の街づくりを考えている。

【高齢視プロジェクト】 カラー研究所の伊藤さん

を中心に高齢者の見え方を体験していく。

イベント・講座も実施している。4月の「共用品イベント講座」では共用品推進機構の星川専務理事にお話しいただいた。同じ4月、「福岡タウンモビリティをつくる会」と合同で新しい福岡市営地下鉄七隈線の使い心地を調査した。今後の予定としては、9月のイベント講座で「高齢者の不便さを理解する」をテーマに高齢視や商品のセミナーを開催する。9月のボランティアイベントとして、福岡のグループと一緒に活動紹介をする。  
(金本幸喜子)

## 「バリアフリー2005」にADF 3団体が共同出展

西日本最大の福祉機器展「バリアフリー2005」(社会福祉法人大阪府社会福祉協議会、テレビ大阪主催)が4月21日(木)~23日(土)の3日間、大阪・南港にあるインテックス大阪で開催された。アクセシブル・デザイン・フォーラム(ADF)からは、(財)日本規格協会、(財)交通エコロジー・モビリティ財団、(財)共用品推進機構の3団体が共同で出展した。

初日から比較的好天に恵まれた展示会場には、3日間で約10万人を超える来場者が訪れ、障害のある人や高齢者をはじめ多くの方が熱心に製品やサービスの情報などを探し回る姿が見受けられた。

出展ブースで特に目を引いたのは、大手自動車メーカー各社による福祉車輦。福祉車輦をメインテーマの1つにした昨年11月の「第38回東京モーターショー」以降、単なる移動手段という領域を超えて、障害のある人や高齢者のライフスタイルの充実、ドライビングの楽しさを提供できるまでに広がってきたように思われる。住宅設備機器も、従来よりも障害者・高齢者がより自立して住みやすい環境を整えるという積極的な方向へ進んでいる印象を持った。

ADFとして2度目の出展となる今年は、出展の効果を確かめるべく、来場者へのアンケート調査を実施した。ブース来場者約1600人のうち、163の方がアンケートに協力してくださった。

## 意外に認知度低い「プリペイドカードの切り欠き」

アンケートでは、まず代表的な共用品6点の認知度を確認したところ、シャンプー容器のギザギザ(69%)、「5」の凸(56%)、ビール缶の点字(54%)、プリペイドカードの切り欠き(37%)、牛乳パックの切り欠き(31%)、家庭用ラップのWマーク(14%)——の順となった。上位3種類の配慮は、早い時期から配慮されていることや見てわかりやすく、接触率が高いこともあって認知度が高い。

それに比べて、意外なのがプリペイドカードの認知度の低さ。携帯電話の普及で公衆電話用プリペイドカードが減っていること、関西の交通カードの切り欠きが丸いことなどもその要因と考えられる。

次に、アクセシブルデザイン(AD)の認知度や普及促進への期待などについて質問したところ、「これからの商品やサービス作りに、ADの考え方や配慮は大切な要素である」と答えた人が70%にのぼった。上位回答からは「ADの普及が高齢者や障害者への理解を深め、共生社会への一歩となる」、「国や行政などが施策の一環として積極的に進めると同時に、子供たちにも小さい頃から知らせていくことが重要」との意見も読みとれた。

また、「ADに関する情報をもっとほしい」という意見ははまだ4割を超えており、今後も展示会などさまざまな機会を通じて普及する必要があることがわかった。

なお、開催中の22日には経済産業省産業技術環境局標準課標準課長の横田真氏が「高齢者・障害者配慮と標準化」と題して講演を行った。(山本 修)



■10万人以上の来場者で賑わった「バリアフリー2005」(左から会場全景、ADFブース、ホンダブース)

### 介護用品の独自開発商品が70点を突破 全国の「あんしんサポートショップ」で販売

イトーヨーカ堂が全国171店舗で展開する介護用品コーナー「あんしんサポートショップ」で取り扱う独自開発商品が70アイテムを突破した。昨年8月の同ショップ開設以来、消費者の声を活かしながら専門メーカー各社と共同で開発を進めているもので、片方ずつ買える靴、上下別々に買えるパジャマなど特徴のあるオリジナル商品を展開、今後もラインナップの充実を図る考えだ。

独自開発商品は4月末現在で73アイテム。主なものは、シルバーカー（価格は1万9800円）＝写真左＝、面ファスナー付きで片方ずつ買える介護シューズ（婦人用9品目＝片方2450～6000円、紳士用5品目＝同2450～4200円）＝写真右＝、上下別々に買えるパジャマ（婦人用・紳士用各6品目、上着＝3300～3900円、パンツ＝3300～3900円）、ガーゼ寝間着（3品目＝4900～5300円）、介護食器（41品目＝980～1780円）、ステッキ（3品目＝3700、3980円）など。いずれも、機能性だけでなく、明るい色柄を採用するなどデザイン性も追求しているこ



とが特徴となっている。

「あんしんサポートショップ」はヨーカ堂の全店舗に開設、福祉・介護用具から衣料、日用品、文具、食品まで、各店舗ごとに800～1000アイテムを取り扱っている。売り場には、全体で500人を超す福祉用具専門相談員など介護関係の専門スタッフを配置し、接客重視の販売を展開している。（高嶋健夫）

■イトーヨーカ堂「あんしんサポートショップ」ホームページ  
<http://www.itoyokado.iyg.co.jp/life/care/index.html>

### 白黒反転の見やすい分度器、三角定規が登場 人気の「ロスケ」シリーズに追加発売

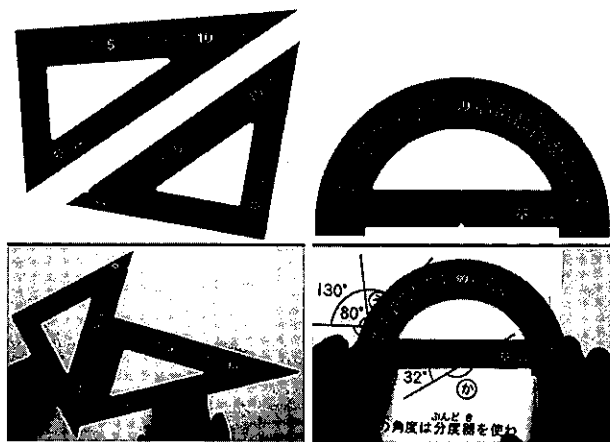
視覚障害者向けの「大活字図書・日用品を開発販売する大活字（市橋正光社長）は、独自開発商品である白黒反転定規「ロービジョンスケール」シリーズに、新たに分度器と三角定規を追加発売した。

いずれも厚さ2mmの亚克力製で、黒地に白抜き文字で目盛りが刻まれている。「ロービジョン分度器」＝写真右＝は5度単位で浮き上げ加工が施されている。サイズは12×6.5cmで、価格は800円。

「ロービジョン三角定規」は直角三角形と二等辺三角形の2枚組み＝写真左＝。サイズは直角三角形が8.2×15×17cm、二等辺三角形が15×11×11cm。価格は2枚セットで1200円。

「ロスケ」シリーズは同社が独自開発した人気商品で、ほかに長さ15cm、30cmの2タイプのスケール（線引き定規）がある。（高嶋健夫）

■大活字のホームページ  
<http://www.daikatsuji.co.jp/>



### 通販カタログ『ネットリコーオーデス』に共用品 オフィスサプライ通販誌の最新号で紹介

リコーが発行している各種オフィス用品の通販カタログ誌『NetRICOH ODeS（ネットリコーオーデス）』が最新の2005年春・夏号＝写真＝で共用品・ユニバーサルデザイン（UD）商品の理念と具体例を紹介した。

巻頭特集の「オフィスのな～るほど」の中で取り上げたもので、「ユニバーサルデザインって何？」と題して、シャンプー容器やプリペイドカード、（財）共用品推進機構の活動などを詳しく紹介。併せて、同誌で取り扱っているコクヨのUD文具、ハウス食品の「六甲の美味しい水」のPETボトルなどの配慮事例を掲載している。

同誌は主にリコー製品のユーザー企業向けに5月、

11月の年2回発行。同社製品のほか、複写機・プリンターなどOA機器関連の用紙・消耗品、文具・事務用品、生活用品、飲食料品などを扱っている。5月に発行した05年春・夏号はA4判・オールカラー・約880

ページで、発行部数は約30万部。掲載商品数は約1万4000点。（高嶋健夫）

■問い合わせ先：NetRICOHカスタマーサポートセンター（Eメール：info@netricoh.com、☎：0120-668-813、ホームページ <http://www.netricoh.com/>）



### お台場に「目配り三角シール」を設置 人気スポット「パレットタウン」の駐車場に採用

法人賛助会員の完装（本社福岡市、深見和巳社長）がバック駐車の手助けや縁石などの注意喚起用に開発した「目配り三角シール」（商品名「サンクリア」）が東京・お台場の人気スポット「パレットタウン」の駐車場に設置された。

商業施設などのバリアフリー・UD関係の設計・施工を手掛けるユニバ（本社東京・北区、森田康男社長）が同駐車場を管理運営する物産不動産から受注した安全強化対策の一環で、障害者用駐車スペースなどの縁石や壁面、歩道と車道の区分帯、進入口

のガードレール、発券機の脇の縁石などに、4月末までに大小2種類の「目配り三角シール」約3000枚の設置工事を完了した。

このシールは住友3Mの反射材「ステイマーク」を使った完装の独自開発商品で、全国の公共施設や大型商業施設の駐車場などですでに4万台分以上が採用されている。（高嶋健夫）

■問い合わせ先：完装（TEL&FAX：092-431-0529、ホームページ<http://www.sunclear.com/>）、ユニバ（Eメール：p\_y\_mori@kitanet.ne.jp）



■障害者用パーキングや縁石に設置された「目配り三角シール」

## <この業界・この団体>(社)全日本文具協会 「共用品普及」を環境、知財に続く第3の柱に

全日本文具協会(全文協)は1988年に任意団体として発足し、91年に社団法人化した。現在加盟しているのは日本筆記具工業会、日本鉛筆工業協同組合など関連8団体と、文具メーカー86社。日本工業規格(JIS)の審議団体として標準化に協力、アジア最大の「国際文具・紙製品展(ISOT)」の特別後援など、多角的な事業を展開している。

現在最も力を入れている事業の1つが環境対策。グリーン購入法、容器包装リサイクル法の制定に伴い、環境に優しい商品の開発促進や普及に取り組んでいる。特にグリーン購入法では、中央省庁や地方自治体が重点的に調達すべき「特定調達品目」として、今年2月現在、文具類は特定の製品分野の中では最多の76品目が指定されている。

もう1つが、知的財産権の保護対策だ。他業界と同様に、文具も中国などの模倣品による知財侵害が拡大し続け、その手口は年々巧妙化しているという。このため、全文協では被害の実態調査、模倣品対策セミナーの開催などの対策に取り組んでおり、4月には北京・上海に視察団を送った。ただ、「即効性のある対策はなく、地道な取り組みを続けるしかない」(田端勝利常務理事)のが現状のようだ。

### AD普及には流通・消費者への啓発が課題

一方、共用品・アクセシブルデザイン(AD)商品の普及に関しては、「環境、知財に続く重要な課題」と位置付けている。2000年には国の高齢者・障



●昨年7月に東京ビッグサイトで開催した「ISOT 2004」には約4万人が来場した

#### ■(社)全日本文具協会

設立 1991年3月  
会長 長谷川澄雄氏  
事務局 〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-14  
東京文具工業健康会館1階  
問い合わせ先 TEL: 03-5687-0961 FAX: 03-5687-0340  
ホームページ <http://www.zenbunkyo.jp/>

害者配慮生活用品の標準化に向けた調査の一環として、文具業界の実態を調査。また、加盟各社の関心も高まり、軽い力で扱える文具など新発想の配慮商品が続々と発売されるようになってきた。

全文協でも今後は商品開発セミナーの開催など業界向けの普及促進策を講じる一方で、本格的な市場育成策にも取り組む構えだ。例えば「ISOT」などの展示会でUDコーナーを設けるなど、「使いやすさを流通事業者や一般消費者に直接訴えかける取り組みも検討したい」(田端常務)という。配慮商品の普及は、日本製品の新たな付加価値創造にもつながるだけに強い意欲を示している。(高嶋健夫)



#### <アクセシブルデザインの普及に向けて一言> 「マーク制度」で企業・消費者の双方に情報発信を 田端勝利・(社)全日本文具協会常務理事・事務局長

共用品・ADの普及は文具業界にとっても重要なテーマだ。全文協は同じ経済産業省所管の日本時計協会、日本玩具協会との間で知的財産権問題に関する情報交流を行っているが、今後は共用品・ADに関しても情報交換・共有を進めたい。特に玩具協会は「共遊玩具」のノウハウがあり、学ぶべき点が多いと思われる。

他方、共用品の普及には「マーク制度」のよ

うなわかりやすい制度の創設も必要だろう。メーカー側にはマーケットに対する意思表示になり、消費者側には購入する際の目安となるからだ。「エコマーク」のほか、容器包装リサイクル法でも同趣旨のマークが普及に一役買っている。標準化などの面で業種横断的に活動している共用品推進機構が先頭に立って、そうしたマーク制度の導入を推進することも1つの方法ではないだろうか。(談)

## 随想 第16回 アジア・アフリカの留学生との交流の中で 私と共用品 かわべとよこ 河辺豊子 (個人賛助会員、日本盲人会連合 点字普及指導室長)

月日の経つのは早いもので、「朝子さんの点字ノート」を、共用品推進機構の前身、E&Cプロジェクトや、いろいろな方のお力添えをいただき、出版してから10年が経とうとしている。この経験は友人の輪を、私の世界を広げてくれた。そして、この間の一般社会における私たち障害者への心の向け方の変化には、目を見張るものがある。

まず、街中での「何かお手伝いしましょうか」の声かけが多くなったことをあげよう。先日友人と駅構内の改札口で待ち合わせした折り、ほんの5、6分の間に、その声かけが3回ほどあった。待ち合わせをしている旨を説明することが申し訳なくなるほどであった。うれしいことである。

公共の場での改善点に目を向けてみよう。毎日単独歩行をしている私にとって、非常に大事な視覚障害者誘導用ブロックだが、数年前にJIS化され、駅構内はもちろん、道路上にも敷設箇所が増えてきている。また、初めての駅など自信のないときに、依頼すれば、駅係員が改札口からホームまで快く誘導してくれるようになった。これも大きな改善点であるが、人員減らしが進む鉄道各社が今後手薄を理由に、サービスを後退させないことを願うばかりである。

### 「日本人、障害者に優しいね！」

さて、2月初め、板橋区にある国際視覚障害者援護協会で話をさせていただいた。ここは、マッサージや鍼灸などの資格を取得、あるいは情報処理の技術を修得し、母国に帰り指導者として活躍する盲留学生たちを援護する施設である。テーマは、「パッケージなどのバリアフリーについて」。私は10点余りの製品を持ち、留学生たちの待つ教室へ向かった。

スーダンのムルタダ君、スリランカのクマラ君、ベトナムのカウ君、いずれも全盲の男性生徒。私は、机をはさんで彼らと向かい合う。まず自己紹介。まだ日本に来て数カ月というのに、日本語のうまさに舌をまく。とはいえ、難しい日本語は分からない。やさしい言葉で、ゆっくり説明しながら授業を進める。1つひとつ、容器を手渡ししながら、容器に付け

られた触覚識別マークや点字にさわってもらう。

ボトル横にギザギザのあるシャンプーボトル、両サイドに「W」の浮き出しマークがあるラップフィルム、三角の危険マークの付いたガスライター、「ボディソープ」と日本語と英語で点字表示されたボディソープ、缶に「お酒」と点字表示された缶ビール、そして、切り欠きのあるテレホンカードや屋根型牛乳パック……。

半分ほど品物をさわってもらったところで、説明を後にして、手渡した品物のどこに触覚識別マークがあり、どういう役目を果たしているかを当ててもらうことにした。難題に首をひねりながら、みんな一生懸命に考えてくれる。が、なかなか答えがみつからない。ヒントを出すと、「あっ！」と手を打ち、うれしそうに知っている日本語を駆使して解答してくれる。感動的だった。

### 「みんなもお国に帰ってやってみて！」

「識別マーク」「切り欠き」と今日初めて耳にした言葉を何度も口の中で呪文のようにつぶやいている3人。と、クマラ君がこう言った。

「日本人、障害者に優しい。とっても障害者のこと考えてるね」

うーん、なるほど。でも、私はあえて直接それには答えず、「みなさんがお国に帰って、障害者のために考えながら、いろいろやってみたら？」と投げかけた。

「そうします」。元気な声が返ってきた。

現在私は、共用品ネットのパッケージプロジェクトに所属している。高齢者も障害者も使いやすい容器、触覚識別マークの付いた容器が増えることを願いながら会議に出席している。微力ではあるが、これからも視覚障害者の立場で発言させていただきながら、参加していきたいと思う。そして、楽しいパッケージプロジェクトであり続けてほしいとも願っている。

(題字は、中野奈津美・(財)共用品推進機構運営委員)



## 「空港のバリアフリー」を考える 進むハード面の配慮、課題はソフトの対応

「空港のバリアフリー化」が着実に進んでいる。昨年末にオープンした羽田空港第2旅客ターミナル、今年2月に開港した中部国際空港「セントレア」は施設内の随所に高齢者や障害者に配慮した新機軸や工夫が採用され、利用者に好評だ。とはいえ、まだまだ解決すべき課題が残されているのも事実。この春、国内外のいくつかの大型空港を利用する機会を得た。利用者の立場で見聞きし、感じたことを「私的体験記」としてご報告しよう。

（高嶋健夫）

### 【羽田第2旅客ターミナル】 幅広の動く歩道、ショップも充実

年間6000万人を超える利用者がある羽田空港の混雑解消と利便性の向上を目的に、昨年12月1日にオープンした第2旅客ターミナルには、最先端のバリアフリーの配慮や工夫が至る所に盛り込まれている。「絶対安全の確立」を前提とした利用者本位の「利便性」「快適性」「機能性」の向上を基本コンセプトに、ハード面では①出発と到着の動線の完全分離、②航空機へのスムーズな乗降、③バリアフリーの徹底——などを実現させた。

バリアフリー対策では、車いすの人でもそのまま利用できるように拡張した動く歩道をはじめ、大きくて視認性の高い誘導サイン、ターミナル内の12カ所に整備された授乳室など、利用者に配慮した施設の充実ぶりが目につく。売り物の「動く歩道」は広々としていて、左側に立ち止まっても、右側を急ぎ足で歩く人と接触することもなく、これなら確かに車いすの人でも安心して利用できそう。ただ、スピードが少々速く、特に降りる時にはお年寄りや子供たちには注意が必要に思えた。

「海」をモチーフにしたという建物は華やかで、ショッピング機能も充実している。特に、手荷物検査を終えて搭乗ゲート内に入ってから、ロビー周辺にたくさんのショップが開設されているのは助かる。はやりの「空弁」も質量ともに充実していて、利便性も確かに向上していると感じさせる。

### 混雑時の「人的対応」に改善の余地

しかし、肝心の「混雑解消」はそれほど進んでいないように思える。羽田の朝の混雑にはいつもウンザリさせられるが、第2ターミナル開設後もその印象は変わらない。実際にこんなことがあった。

弱視の筆者はインターネットでチケットを購入することが多いが、障害者手帳を確認する手続きが必要のため、機械でのチェックインができず、結局は係員のいるカウンターで発券してもらうことになる。ここがまず混むのである。長蛇の列ができていのに、開いていない窓口があるのは毎度のこと。以前、イライラして「早く全部開ける！」と怒鳴りだすビジネスマンを目撃したことがある。

この日はそれでも10分程度待ただけで順番が来たものの、発券作業にまた10分。「何かお手伝いす



■セントレアの設備。左から、案内サイン、「アクセスプラザ」、高速船への通路

ることはありますか？」と親切に対応してくれるのは有り難いのだが、毎回同じことを繰り返し聞かれるのはちょっと閉口する。ようやくチケットを手にした時、係員が「〇番ゲートですので、左側の手荷物検査をご利用になると近いです」と親切に教えてくれた。お礼を言って従ったのだが、これが大間違い。行ってみると、団体客が長蛇の列をなし、係員が「手荷物検査場はカウンターの右端にもあります。そちらは空いています」と大声で叫んでいる。

並び直そうかとも考えたが、右側の検査場はここからは数百メートルも向こう側。今から移動するのも大変だし、しかも搭乗口の位置がこちら側なので、検査が済んだらまた同じ距離を戻ってこなければならぬ。迷った末に断念し、実に15分以上も待った。その後、長い通路を早足で歩いて搭乗口に着いた時にはもう出発15分前。すでに搭乗が始まっていた。この日は出発時刻の1時間以上も前に空港に来ていたのに！

要するに、検査場前の案内係と発券カウンターの係員との連携が全くできていないのだ。せっかくハード面のバリアフリー化が進んだのに、ソフト面の人的サービスがこれでは、利用者は喜んでくれない。まだまだ改善の余地はあると実感した。

### 【中部国際空港】 すっきりした動線、見やすい表示

愛・地球博開幕に合わせ、今年2月に開港した中部国際空港「セントレア」は、実に移動しやすい空港という印象を持った。何よりも目立つのがスペースの広さ。手荷物受取場、トイレ、通路など、どこも余裕を持って作られていて、採光の良い建物と相

まって何より快適さを印象づけられた。

鉄道、バス・タクシー、高速船などの空港への交通手段の乗り継ぎ場を1カ所の広場にまとめた「アクセスプラザ」という構造もわかりやすく、動線をすっきりさせることに貢献している。今回、筆者は高速船を利用したのだが、あえて言わせてもらえば、これだけは「アクセスプラザ」から船着き場まで結構歩かされた。仕方ないことだが、移動カートなどを運行してもらえたら有り難いと感じた。

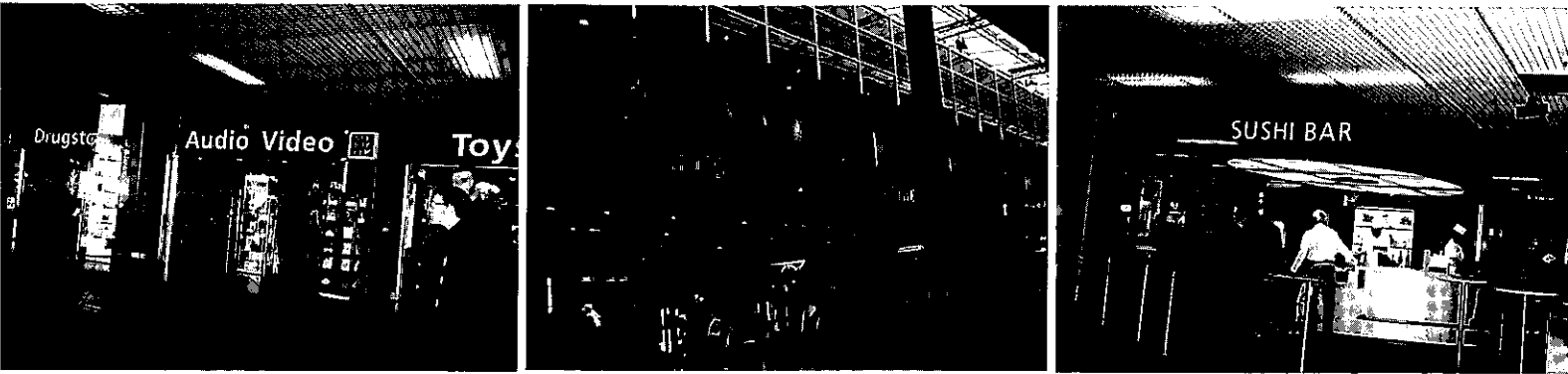
もう1つ特筆すべきなのが、案内表示の見やすさだ。ピクトグラムと組み合わせた案内表示はどれも見やすく、設置場所や高さ、視野角、採光条件まで考慮していることが見て取れた。それもそのはず。実は、このサインはすべて個人賛助会員でアイ・デザイン代表の児山啓一さんの作品なのだ。児山さんはこれまでも東海道新幹線や成田、羽田空港など数多くのUD配慮の案内サインを手掛けており、「セントレア」はこれまでのノウハウの集大成とも言える。児山さんは「大きな文字を使ったり、明度差をはっきりさせたりだけでなく、文字の周りの余白を広めに取ったり、人の視線より上のサインはやや下向きに設置するなど、きめ細かな工夫を積み重ねています」と見やすさの理由を説明してくれた。

### 【オランダ・スキポール国際空港】 わかりやすく、楽しい公共サイン

欧州でも有数の国際ハブ（拠点）空港であるオランダのアムステルダム・スキポール国際空港。この春、初めて訪れる機会があった。その巨大さ、レストランやショッピング施設の多さ、そして利用しやすさ。話には聞いていたが、行って見て驚き、すっ



■羽田第2ターミナルの設備。左から、動く歩道、フライト便の表示板、授乳室



■スキポール空港のショップサインの数々

かり魅了させられた。

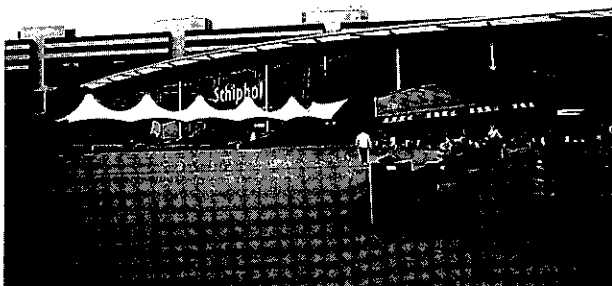
すぐに気付いたのが、ユニークなお店の看板。店の名前などは一切なく、大きな文字で「本」「香水」「靴」「オランダ土産」などと英語で表示している。これなら何を売っているのか、一目瞭然でわかる。「これぞ、言語を超えたバリアフリー」だと思った。

聞くとところによると、スキポール空港のサイン表示システムを導入する空港が増えており、すでにニューヨーク3空港、スウェーデンなど欧米の空港が採用、事実上の国際スタンダードになりつつあるそうだ。

ならば、ここはぜひとも漢字圏での表示システムのスタンダード作りを日中韓3カ国のアクセシブルデザイン委員会の場などを通じて推進してもらいたい！ そんな夢が広がってくる。

そもそも「快適な空港」って何だろう？

ところで、そもそも「空港」って人に優しい存在なのだろうか？ 空港に行く度に、30年近くも前に読んだある米国の著名コラムニストの辛口コラムを思い出す。粗筋はだいたい、こんな内容だった。



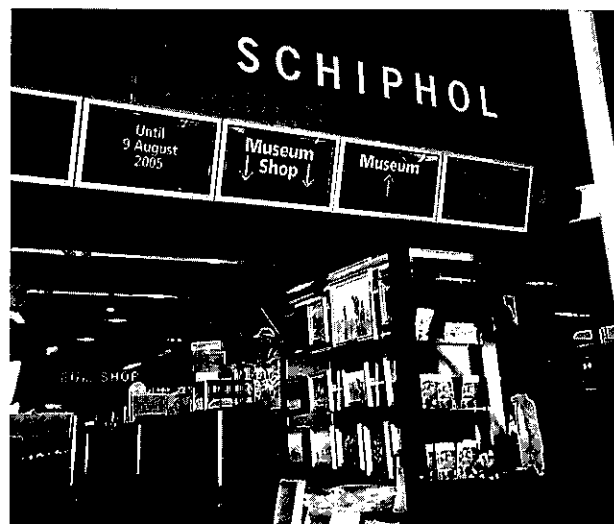
■欧州有数のハブとして知られるスキポール空港

このコラムニストが当時開港したばかりの巨大空港、シカゴ・オヘア国際空港を訪れた。利用する飛行機の搭乗ゲートを確認し、歩き出す。ところが、行けども行けども、たどり着かない。重い荷物を抱え、へとへとになって歩くこと数十分。ようやく目指す搭乗ゲートが現れた時、そこはなんと、目的地のグラス・フォートワース空港だった――。

巨大空港が内包する本質的な問題を痛烈に皮肉った一口話である。観光旅行に出掛ける人にも、ビジネスで利用する人にも、空港は心ときめく「ハレの場」であることは間違いない。バリアフリー化も着実に進んでいる。でも、まだまだ「快適な空間と時間」を楽しめるようにはなっていない部分は多い。そう感じるの、私だけではないだろう。

■空港のホームページ：

- 羽田空港 <http://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/>
- 中部国際空港 <http://www.centrair.jp/>
- スキポール国際空港 <http://www.schiphol.nl/>



■空港内には国立博物館の別館もある。入場無料！

「数字で見るバリアフリー（第3回：100～999）」

ことよしかず 後藤芳一（共用品推進機構運営委員、日本福祉大学客員教授）

共用品<sup>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</sup>（小さい添え字<sup>①～⑳</sup>は、同様の用語が本講の第1～34講に既出であることを示す）の基本的なことは、鍵になる数字を通じて、押さえることができる。

104. 「JISの公共施設用図記号は、104種類」

公共施設<sup>㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</sup>などで用いる図記号<sup>㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</sup>は、104種類が日本工業規格（JIS）化<sup>㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</sup>され、JIS Z8210「案内用図記号」で2002年3月に発行した。（財交通エコロジー・モビリティ財団<sup>㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</sup>が作成した「標準案内用図記号」（125種類）が元になった。

112. 「日本の年間出生数は、112万人」

日本の年間出生数は減少が続いており、2003年は112.4万人（合計特殊出生率は1.29）であった。第1次ベビーブーム期（1947～49年）には270万人（同出生率は4.3～4.5）であった。第2次ベビーブーム期（1971～74年）後の1975年に200万人台を割り込み、以降、減少が続き、人口の「少子高齢化」をもたらしている。

159. 「障害者の職業リハは、ILO第159号条約」

「障害者<sup>㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</sup>の職業リハビリテーション<sup>㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</sup>及び雇用に関する条約（ILO第159号条約）」は、国際労働機関（ILO）<sup>㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</sup>が1983年の総会で提示し、日本では92年に批准された。この条約をもとに、「障害者の雇用の促進等に関する法律」<sup>㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</sup>と、それに基づく法定雇用率制度などの整備が進められている。

170. 「共用品推進機構の個人会員は、230人」

市民団体のE&Cプロジェクト<sup>㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</sup>から発展した、共用品推進機構<sup>㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</sup>は、障害者、高齢者<sup>㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</sup>、企業関係者など、多くの個人賛助会員が活動を支えている点に特徴がある。個人賛助会員数は約170人（1月31日現在）。

173. 「障害者関係機器の国際規格（ISO）は、TC173」

国際標準化機構（ISO）<sup>㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</sup>には、機器ごとに技術委員会（TC）があり、TC173は“Assistive products for persons with disability”（邦訳は「リハビリテーション機器システム」）。車いす<sup>㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</sup>、誘導ブロック<sup>㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</sup>などを含む。ほかに、TC159“Ergonomics”（同「人間工学」<sup>㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</sup>）などがある。

295. 「ISO/IECガイド71の、重要考慮295点」

ISO/IECガイド71<sup>㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</sup>は、高齢者・障害者への配慮事項<sup>㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</sup>を、表示、容器<sup>㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</sup>など7つの表（マトリクス）で示す。各表は、心身機能（13区分）と規格作成の際の考慮ポイント（8～17点）を示す。各表には、特に重要な考慮ポイント295点が網かけで示されている。

352. 「身体障害児・者数は、352万人」

身体障害児（18歳未満）は9万人、身体障害者は342.6万人（2000～02年厚生労働省<sup>㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</sup>調査、以下同じ）。65歳以上（高齢化により障害を生じる人）が増えており、それ以下の年齢では漸減している。知的障害児・者と精神障害者も合わせると655.9万人になる。

392. 「介護の必要な高齢者数は、392万人」

介護保険制度<sup>㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</sup>で、「要介護」または「要支援」と認定された高齢者（65歳以上）は、392.1万人（2004年12月現在、前年同月比8.1%増）。65歳未満も入れた、介護保険制度による要介護・要支援認定者数は、406.5万人になる。

508. 「米国リハビリテーション法508条<sup>㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</sup>」

国防などの例外を除き、米連邦政府が取得するすべての電子・情報技術、政府機関のウェブサイトを障害者も利用可能にする、字幕<sup>㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</sup>や音声解説など画像や音声情報の代替手段を確保することなどを義務付けた。各州政府・公的機関も広く含まれる。2001年6月施行。既存法の努力義務を、義務として強化した。



鴨志田厚子さんの談話室⑤

真の「親切さ」「使いやすさ」とは「曲がり角」で初めてわかったこと

前号まで4回にわたって、鴨志田さんのためになる話を聞いてきましたが、自分のものになっていなければ意味がありません。そこで今回は、これまでのお話を私なりに「復習」してみようと思います。

- 第1回: 「自立的バリアフリー」
ここでは「バリアフリー」の基本的な考え方を学びました。最も大事なものは、本人ができることまで取り上げてしまうのではなく、障害の有無や年齢に関わらず、人それぞれの「出来る力」を活かす方向で考えることです。
第2回: 「心のバリアフリー」
モノを作るのも、サービスを提供するのも、「心」がないとできません。例えば、「私はこのデザインが好き」と自分の気持ちだけから作るのではなく、「使い手が何を必要としているか」、利用者を最優先に考

える心が大切なのです。
また、説明しないと使い方がわからないのでは困ります。用途がすぐにわかることが大事です。
第3回: 使い手を考えたモノ作り
モノ作りには、使う人の動作の始まりから終わりまでの「動作分析」が必要であることを教わりました。実際の人の動きを通して、感覚や感情などの定性的なデータの集計・分析を積み重ねていくことが大事で、「人の動きや欲求が、モノの形を作る原点になる」ということでした。
第4回: 「インプット」と「アウトプット」
いろいろな情報・知識を収集したら、1つの方向からだけではなく、多面的に捉える。それらを自分なりに取捨選択して「自分らしさ」を作り出す。これが「個性」の源泉。
知識はたくさん蓄えておけばおっくうほど、ある日突然ひょっこりと顔を出すもの、なのです。

森 こんな感じで「講義録」をまとめましたが、いかがでしょうか?
鴨 はい、良くできました(笑)。勝手なことばかり言って、かえってわかりにくくなってしまったかも知れませんね。でも、「バリアフリー」とか「ユニバーサルデザイン」とか、言葉に酔ってしまうと、本末転倒になってしまうと思うのです。
森 具体的にはどんなことですか?
鴨 私も15~20年前に使いやすいであろうと、親切さや新しさを強調したデザインコンセプトをもって、仕事をしていた時期がありました。でも、段々と年齢的、体力的な実感が生じて、初めて「なるほど、これなんだ」と気付いたことが多々あります。それで、視座を変える必要があると思い始めたんですね。曲がり角を実感されておられる方々から、率直なご意見がもっと多く寄せられるといいと思っています。

森 次回をお楽しみに。(構成・文/森川美和)

共用品通信

- 【トピックス】
○機構サイトから「コミュニケーション支援用絵記号デザイン用絵記号原則 (JIS T 0103)」の制定に伴う絵記号例の無償ダウンロード開始
コミュニケーション支援用の絵記号デザインの日本工業規格 (JIS) が制定され、4月20日から、人・動物、動き・様子、飲食物などの絵記号例が共用品推進機構のホームページ (http://www.kyoyohin.org/) から、無償でダウンロードできるようになった。
○「公共サービス窓口における配慮マニュアル」発行
政府の障害者施策推進本部が作成した、国の機関の公共窓口職員向け「配慮マニュアル」で、共用品推進機構が作成に協力した。

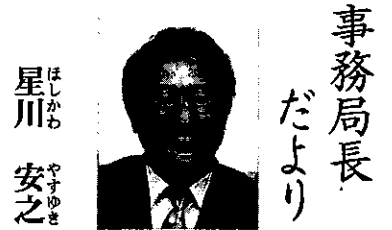
- 【新刊紹介】
○UDジャパン、「0歳からの手話」を刊行
法人賛助会員のUDジャパン (社長内山早苗氏、http://www.ud-japan.com/) は「ユニバーサル手話シリーズ」を創刊し、第1冊目の「0歳からの手話」を刊行した。手話の基本が幼児にわかるようにイラスト、

- 写真をふんだんに取り入れた内容となっている。A5判・144頁で、定価は1260円。一般書店で購入できる。
【委員会】
○第5回点字表示方法における標準化に関するWG (3月2日)
○第2回アクセシブルデザイン検討委員会 (3月8日)
○第5回不便さ調査委員会 (3月18日)
○第3回サービスの共用化指針策定に向けた検討委員会 (3月22日)
○評議員会 (3月9日)
○理事会 (3月15日)
○第2回中日韓アクセシブルデザイン委員会 (4月29日、ソウル)
【展示会】
○「バリアフリー2005」(4月21~23日、大阪)
大阪市で開かれた高齢者・障害者の快適な生活を提案する総合福祉展に、機構はアクセシブルデザインフォーラム会員である(財)交通エコロジー・モビリティ財団、(財)

「1年の長さ」に思うこと
さらなる改善を目指して使命を推進

☆...平成17年度に入り早2カ月。この号が出る頃には、16年度の事業報告ならびに決算の審議を行う理事会・評議員会の準備に入っている頃だろうと思う。
「子どもの1年と大人の1年とでは、同じ1年でも長さが違う」。昔、そんな大人たちの言葉を「訳のわからないことを言う」と思っていたが、今はただただ共鳴できるようになってきた。
☆...日中韓3カ国による共通指針作りの場である第2回「中日韓アクセシブルデザイン委員会」が、4月29日にソウルで開催された。
韓国では、昨年末に日本工業規格 (JIS) のアクセシブルデザイン (AD) 関連8規格を韓国規格 (KS) に導入したことも大きく影響してか、「高齢親和産業」の育成を国の政策として推進する方針が決定された。
その決定を受けて、前日の28日はADに関係のある政府、業界、研究

関連の人々が100人ほど集まり、日本、中国、韓国で行われているADの活動をシンポジウムを通じて情報交換し、今後の政策の参考にするといったイベントも行われた。韓国からは、同政策を中心的に推進している部署のチームリーダーも講演され、参加者から多くの質問を受け、同時に大きな期待を寄せられた。
中日韓AD委員会では、これまでに合意に向けて議論してきた日本のJIS5種類をISOに新たに新規開発のテーマとして提案していくことで正式合意。さらには、ISOのどのTC (技術委員会) に提案していくかという日本提案に関しても合意を得ることができた。
☆...一方、日本国内に目を移すと、内閣府が事務局となり、総理大臣を本部長とする障害者施策推進本部が作成した「公共サービス窓口における配慮マニュアル~障害のある方に対する心の身だしなみ~」が4月20



日に完成し、内閣府のホームページに掲載された。
機構は、これまでに関わった郵便局窓口、静岡県庁窓口など、公的機関におけるバリアフリーサービスマニュアル作成の経験を生かし、このマニュアル作成にも協力することができた。
このマニュアルの冒頭では「さらなる改善を目指し、必要に応じて改訂していく」ことが明記されている。
最初から「完全なものを目指す」ことは必要なことであるが、それ以上に大事なことは、「完全でないことがわかった場合にすぐに修正・改善できる」ことだと思っている。この考え方はあらゆる場面において必要であると、こうした仕事を通じて改めて感じている。(★)

共用品通信

- 日本規格協会と共同出展した。
○「発明の日」イベント (4月23~24日、熊本)
特許庁が毎年4月18日の「発明の日」に合わせて実施している産業財産権制度の普及啓発活動の一環として、九州経済産業局主催の熊本でのイベントに共用品を展示した。
【講演・セミナー】
○「中日韓アクセシブルデザイン・シンポジウム」(4月28日)
韓国が、日本のアクセシブルデザイン関連規格のうち8規格を韓国規格 (KS) に制定したことを機に、日本、中国を招いてシンポジウムをソウルの韓国標準協会 (KSA) で行った。
【来訪・来所】
○台湾介護産業ミッション (4月22日)
(財)交流協会による台湾介護産業ミッションに対する説明会に、台湾側参経済部工業局民生化工組、(財)医薬工業技術発展中心、雅博股份有限公司、光陽工業股份有限公司

- 公司、徳淵企業股(分)有限公司を迎え、経済産業省医療福祉機器産業室、標準企画室、共用品推進機構から現状と展望の報告を行った。
【報道・マスメディア】
○NHKラジオ「耳より生活情報」に生出演 (4月7日)
共用品や共用品推進機構の活動内容、障害者の不便さ調査などについて、事務局・凌氏が同番組に生出演し、説明した。

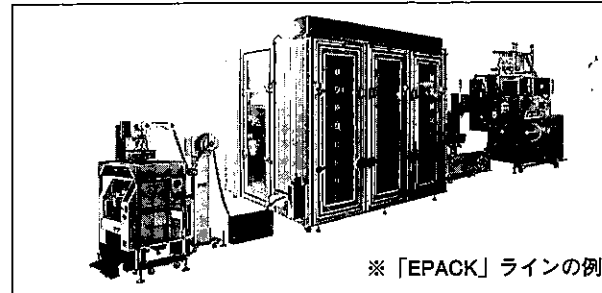
<読者の皆様へのお願ひ>
「共用品通信 情報アラカルト」欄では新製品・新サービス、セミナー・講演・展示会、モニター募集など、個人・法人賛助会員の皆様からのお知らせも掲載致します。事務局「インクル編集担当宛」に、ニュースリリース、イベント案内などの情報をお寄せください。Eメールも歓迎です。





# 小松製作所「EPACK (イーパック)」

## 軽い力できれいに開封できる「共用パッケージ」



※「EPACK」ラインの例

■「EPACKパッケージングシステム」  
 ▽特徴：充填物に合わせて商品試作、システム設計から包装フィルムの供給、メンテナンスまでを一貫して請け負うトータルエンジニアリング方式で販売している  
 ▽問い合わせ先：(株)小松製作所イーパック事業部 (TEL: 03-3892-7564)  
 ▽ホームページ  
<http://www.komack.co.jp/>

スティックシュガーなど小袋自動充填包装機械の小松製作所(本社東京・荒川区、小松慎二社長)が開発した「EPACK (イーパック)」は、開封しやすさと完全密封性を両立させた新しい包装システムだ。専用フィルムまでを独自開発し、多数の産業財産権を取得・申請済み。世界包装機構ワールドスター賞(2000年)など数々の賞を受賞している。

最大の特徴は、小さな子供からお年寄りまで誰にでも簡単に開封できること。前後にやらずらして

シーリングされた開封部を両手で左右に軽く引っ張るだけで、中味が取り出せる。袋を開くのに必要な力は従来の小袋包装の10分の1程度。「切り口」がなく、開封後は1枚のシート状になるので、ゴミ減量にもつながる。

### 食品、石鹸などに採用広がる

充填できるのは「固まるもの」。ゼリー、チョコレート、チーズなど粘体の食品や冷凍食品のほか、固形の石鹸、芳香剤なども利用できる。



採用商品には、雪印乳業「ハイ! チーズ」、資生堂「&フェイススマートメゾッド」の美容ゼリー、カネヨ石鹸「フオーレ」などがあり、小松製作所では「荒川から世界へ」を合言葉に市場開拓に挑んでいる。

たかしまはる (高嶋健夫)

作る人と使う人の共用品情報誌

## インクル 第36号

2005(平成17)年5月25日発行  
 "Incl." vol.7 no.36

©The Accessible Design Foundation of Japan  
 (The Kyoyo-Hin Foundation), 2005  
 隔月刊、奇数月に発行

一般頒価 1部1000円  
 (但し、個人・法人賛助会員については、購読料は年会費の中に含まれています)

※視覚に障害のある方など、墨字版がご利用できない方にはTXTファイルのフロッピーディスクを提供しています。必要のある方は、事務局までお申し出ください。

編集・発行 (財)共用品推進機構  
 郵便番号 101-0064  
 東京都千代田区猿樂町2-5-4 OGAビル2F  
 電話: 03-5280-0020  
 ファクス: 03-5280-2373  
 Eメール: jimukyoku@kyoyohin.org  
 ホームページURL: <http://kyoyohin.org/>  
 発行人 鴨志田厚子  
 事務局 星川 安之  
 森川 美和  
 凌 竜也  
 山本 修  
 金丸 淳子  
 布橋 智  
 天野 来未  
 編集長 高嶋 健夫

執筆・協力 金本 幸喜子  
 (五十音順) 河辺 豊子  
 後藤 芳一  
 小塚 武志  
 永井 武志  
 中島 巖  
 西岡あおい  
 牧内 智子  
 山本百合子

印刷・製本 ベスト・イーグル(株)/三栄印刷(株)  
 本誌の全部または一部を視覚障害者やこのままの形で利用できない方々のために、非営利の目的で点訳、音訳、拡大複製することを承認いたします。その場合は、(財)共用品推進機構までご連絡ください。上記以外の目的で、無断で複製することは著作権者の権利侵害になります。